

編集後記：「ローマ人の物語」全15巻を毎年1巻のペースで書き続けている塩野七生の現在にまで至る活躍は、彼女自身も述べているとおり、1968年頃の彼女のデビュー当時の「中央公論」編集長、粕谷一希の存在なしにはありえない。立花 隆の1974年の「田中角栄研究—その金脈と人脈」の記事は、当時の「文藝春秋」編集長、田中健五の企画の下に書かれた記事である。「世界」（岩波書店）の雑誌としての特徴は、第二次世界大戦直後の創刊以来約20年にわたって編集長を勤めた吉野源三郎の存在に大きく依存している。それらの雑誌が何十年にもわたって発行し続けられているのは、それら編集長達の企画をしっかりと支える編集部員、さらに、初の読者としての著者へのコメントと編集者としての校正をしっかりとやって水準の高い印刷文章を実務的に維持している編集部員のプロフェッショナルとしての仕事振りによるだろう。

「天気」の場合には、気象学という絞った分野の学会員のための雑誌であり、かつ、基本は投稿によるので、上記雑誌ほどには、企画のウエイトは高くはない。しかしながら、この春の気象協会の「気象」廃刊に伴う「日々の天気図」欄の掲載開始など、やはり、新野 宏

編集長を先頭とした編集委員の企画と行動力が「天気」の性格をある程度規定している。また、論文・短報などの著者と査読者とを媒介する担当編集委員の役割は大きい。その他の原稿も、編集委員の誰かしらが、初の読者として目を通し、必要な場合、著者に改稿をお願いして、掲載される文章の質を維持している（私は、「本だな」と「海外だより」欄を担当している）。

編集の仕事というのは、一種のインフラストラクチャー（社会基盤）である。そういえば、塩野七生の「ローマ人の物語」の最新刊第X巻は、「すべての道はローマに通ず」（新潮社）であった。第I巻を書いていた当時から、「インフラストラクチャーくらい、それを成した民族の資質を表わすものはないと信じていたから」、全15巻の1巻を「ローマ人が築きあげたインフラストラクチャーのみに捧げたいという想い」が強く、その巻のタイトルも「すべての道はローマに通ず」と決めていたのだそうである。「天気」は、気象学会の「資質を表わす」指標の最大のものであろう。「天気」に原稿を寄せてくださる気象学会員の皆さんと編集委員とで協力して、「天気」をよりよいものにしてゆきたい。

（国立環境研究所 神沢 博）

「天気」編集委員会

編集委員長 新野 宏(理事)

編集委員 神沢 博(理事)・古川武彦(理事)

藤部文昭(理事)

石田純一・大淵 濟・岡崎賢治

勝山健一・勝山 税・金田昌樹

川島正行・木村陽一・小出 寛

桜井敏之・佐藤晋介・小司禎教

住 明正・関山 剛・高野清治

高橋 宙・滝下洋一・田口晶彦

寺坂義幸・中西幹郎・中村 尚

新村典子・板東恭子・別所康太郎

水野 量・山本 哲

地区編集委員 北海道 西 道夫・渡部雅浩

東北 小柴 厚・岡本 創

関東 城尾泰彦・横井貴子

中部 永尾一平・渡辺真二

関西 和田高秀・山中大学

九州 渡辺典昭・中島健介

沖縄 我謝良弘

編集書記 遠藤和子

複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい個人または団体（図書館も含む）は、著作権者から複写権等の行使の委託を受けている下記の団体から許諾を受けて下さい。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル
学術著作権協会

Tel : 03-3475-5618, Fax : 03-3475-5619

E-mail : naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp

Notice about photocopying

In order to photocopy any article from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization which has been delegated for copyright for clearance by the copyright owner of this publication.

Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC)

9-6-41 Akasaka, Minato-ku, Tokyo 107-0052, Japan

Tel : 81-3-3475-5618, Fax : 81-3-3475-5619

E-mail : naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp